

## ■ウィーン郵便貯金局

- ・オットー・ワグナー
- ・1903年設計
- ・1904-06年第一期工事
- ・1910-12年第二期工事

ウィーンを訪れて市内を観察すると、街並みを保存する為、一つの建築物として街並みに対して主張することなく集団で街並みを構成していた。その中でもオットー・ワグナーの代表作であるウィーン郵便貯金局は形態的な構成は街並みにフィットしているのだが外壁の素材・アプローチの軽快さなどと街並みに対して主張をしているように思える。

内部空間は半透明のガラスがアーチに沿ってはめられた二重のガラス屋根を用いることで自然光が屋根を通して内部空間に取り入れられ、ガラスブロックの床により明るく透明度の高い内部空間が実現されている。装飾的要素を排除しながらも幾何学的な単位の反復が空間にリズムを与える構成となっている。

そのようなデザインだけでなく、鉄とガラスとアルミといった建築素材においてもオーストリアの現代建築への流れを感じ取ることが出来たのではないかと思う。

